



## 6月7日は十八中の創立記念日です

～今回は十八中の歴史～

1986年4月に「豊中市最後の中学校」として十八中は開校しました。今年の1年生は37期生、つまり十八中は創立37年目になります。

下の写真は1970年の蛍池周辺の写真です。十八中の敷地が昔はため池（山所池 やまんじょいけ）だったことがわかります。今でも体育館の周囲に山所池は残っていますね。山所池は昔の書物によれば「文禄4年=1595年に麻田藩の藩主であった青木一重が作らせた」とあり、歴史で習う豊臣秀吉が生きていた時代から続いている池であることがわかっています。



池の上に体育館が建っている学校は大変珍しく、修学旅行で訪れた沖縄の民家の方も「ホームページで見ましたが、池の上に体育館があるなんて素敵ですね。」と感心しておられました。もしかしたら、そんな学校は日本では十八中だけかな…と私は思っているのですが、もし「他にもあるよ」という情報があったら教えてください。

十八中の校舎は創立当初から変わっていません。「卒業してから随分と経ちますが、校舎はきれいですね。」と懐かしそうに話される本校出身の保護者の方もいらっしゃいます。創立当初か

ら生徒や教職員が掃除などをていねいに行い、大切にしてきたのでしょうか。大きな変化はありませんが、時代の流れの中で、エレベーターやエアコン、太陽光発電やネット環境などが整えられ、環境は充実してきています。今後スロープやトイレなどがもっと充実したらいいと思います。

校舎は変わっていませんが、生徒のことでは変化がありません。右の写真は昔の卒業アルバムの写真ですが、生徒たちは同じような服を着ていますね。実は創立から15年ほどは上着（ジャンパー）とベストだけは決まっていた。今のように完全に自由服になったのは2001年度から。生徒会などで協議をして決めたそうです。



生徒の人数も変化があります。創立の1986年度は1年生（1期生）しかいませんでしたが、生徒数は現在とほとんど変わらない251名でした（現在の生徒数は3学年で265名）。一番多かったのは初めて全学年がそろった1988年度で、671名（20学級）の生徒が学んでいました。現在の学習室や給食配膳室、被服室、視聴覚室、生徒会室、第1会議室も全部普通教室でした。

その後生徒は減り続け、今では豊中で一番小さい中学校になりました。人数が少ないということは、お互いのことがよくわかるということ。学年を超えて仲の良い関係をつくってほしいと思います。

毎年創立記念日の前に「十八中だより」に書いているので、覚えている人もいますが、1986年4月9日に開校式、第1回入学式が行われたのに、なぜ創立記念日が6月7日なのでしょう。創立30周年記念誌に次のように記されています。

1986年4月に十八中は開校しましたが、その4月の時にはまだグラウンドにはブルドーザーが入って工事をしていました。つまり、この時にはまだ校舎すべてが完成していませんでした。学校が始まっても、工事は並行して続けられ、最後に残った施設であるプールが完成したのは5月末でした。校舎すべてが完成したことを受けて、「開校記念式典」を6月7日に開くことになりました。そこで、この日を「創立記念日」としたのです。

1年生の国語の教科書に「朝のリレー」という詩が載っていますが、私たちも卒業生や昔の教職員からこの十八中を引き継ぎ、そして次の世代の人たちにリレーしていくこととなります。私たちが仲よく楽しい学校生活を過ごすことが、次の人たちに素敵な学校をリレーすることになるのだと思います。みんなで充実した学校生活を創っていきましょう！

### <十八中クイズ>

創立当初はプールの横のテニスコートの他に、もう一面テニスコートがありました。どこにあったでしょうか？ 本館2階プレイルーム前廊下に昔の十八中のパネルが飾られています。よく見たら見えるかも…

